

# 議員全員協議会会議録

令和3年4月30日

宮古市議会

## 令和3年4月宮古市議会 議員全員協議会会議録目次

(4月30日)

議事日程	1
出席議員	2
欠席議員	2
説明のための出席者	2
議会事務局出席者	2
開 会	3
説明事項(1)	3
閉 会	12

# 宮古市議会議員全員協議会会議録

日 時  
場 所

令和3年4月30日（金曜日） 午前10時  
市議会 議場

---

○

---

事 件

〔説明事項〕

(1) 遊覧船事業に係る進捗状況について

出席議員（22名）

1番	白	石	雅	一	君	2番	木	村	誠	君	
3番	西	村	昭	二	君	4番	畠	山	茂	君	
5番	小	島	直	也	君	6番	鳥	居	晋	君	
7番	熊	坂	伸	子	君	8番	佐々木	清	明	君	
9番	橋	本	久	夫	君	10番	伊	藤	清	君	
11番	佐々木	重	勝	君	12番	高	橋	秀	正	君	
13番	坂	本	悦	夫	君	14番	竹	花	邦	彦	君
15番	長	門	孝	則	君	16番	落	合	久	三	君
17番	松	本	尚	美	君	18番	加	藤	俊	郎	君
19番	藤	原	光	昭	君	20番	田	中	尚	君	
21番	工	藤	小	百合	君	22番	古	舘	章	秀	君

欠席議員（0名）

なし

---

説明のための出席者

〔説明事項〕（1）

産業振興部長	伊藤重行君	観光課長	前田正浩君
もてなし観光係	松浦宏隆君	観光事務専門員	佐々木均君

---

議会事務局出席者

事務局長	下島野悟	次長	前川克寿
主任	佐々木健太		

---

## 開 会

午前10時00分 開会

○議長（古舘章秀君） おはようございます。ただいまから議員全員協議会を開会します。ただいままでの出席は22名でございます。会議は成立しております。本日の案件は説明事項1件となります。議題となります遊覧船事業に関する説明はこれまでも議員全員協議会で扱ってきた経緯を踏まえ、所管の委員長とも協議し、全協の場で説明を受けることといたしました。皆様スムーズな議事進行にご協力をお願いいたします。

○

### 説明事項（1） 遊覧船事業に係る進捗状況について

○議長（古舘章秀君） それでは説明事項の1、遊覧船事業に係る進捗状況について説明願います。伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 改めましておはようございます。それでは遊覧船事業に係る進捗状況について説明をいたします。資料の1ページをお開き願います。先の3月定例会議で予算お認めいただきましたのでそれ以降の進捗状況となりますけれども、4月5日に第1回宮古市遊覧船建造工事プロポーザル選定委員会を開催をし、プロポーザルの実施要領、建造工事仕様書、参加事業者の指名について協議をし決定をいたしました。選定委員は記載のとおり、佐藤副市長を委員長といたしまして市の関係部長、並びに国立宮古海上技術短期大学校、宮古水産高等学校の先生の8名で構成をしております。プロポーザル指名業者は岩手県内に事業所本社を有し、造船法の届出または小型造船業法の登録が管理をしており、かつ宮古市の指名競争入札参加者資格者名簿に登録をしているか。契約日までに指名競争入札参加者の資格指名等に関する規定に関する資格審査を受けていることとし、記載のとおり釜石市の有限会社釜石造船場、株式会社小鯖船舶工業、山田町の株式会社ティエフシーの3者を指名することに決定をしたところでございます。4月27日に第2回宮古市遊覧船建造工事プロポーザル選定委員会を開催いたしまして、プロポーザル指名事業者のうち、2者から提案のあった技術提案書について、プロポーザル選定委員の採点によりまして、記載のとおり山田町の株式会社ティエフシーに決定をしたところでございます。資料の2ページをご覧ください。今後のスケジュールになりますけれども、まず1といたしまして建造工事の仮契約につきましては、本日締結をする予定でございます。（2）建造工事請負契約の締結に関する議決につきましては、連休明けの早い時期に議案を提出いたします。（3）定期航路不定期航路事業の許可申請につきましては、6月上旬から取りかかりまして来年の5月末までに完了をいたします。（4）運営会社の選定につきましては、9月上旬から取りかかり、11月下旬までに完了いたします。（5）クラウドファンディングにつきましては、7月上旬から年度いっぱい実施をする予定で取り組みます。（6）船舶検査を来年の5月中に受け、（7）遊覧船の引渡しを5月下旬といたします。（8）その後、6月いっぱい東北運輸局による安全検査、（9）6月下旬からは運営会社による習熟航海訓練を行いまして、最後に7月中旬に就航をする予定で進んでまいります。なお、参考として次ページに提案を受けた図面を添付しております。以上で報告を終わります。

○議長（古舘章秀君） 説明が終わりました。この件について何か質問があれば挙手願います。田中尚君。

○20番（田中尚君） ひと通り今日までの経過についてのご説明をいただきました。私は端的にプロポーザルに関わって3者という報告をいただいておりますが、このうちの1者が辞退をしたという報告でありますけれども、ここの1者が辞退された理由は何ですか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 辞退した業者は小鯖船舶工業さんになります。詳細は分かりかねますけども、小鯖船舶工業においてはメインの造船工場が東京にもございます。何回か会社を訪問した際に2年、3年先まで船の建造のスケジュールが入っているということを知ってございました。以上です。

○議長（古舘章秀君） 田中尚君。

○20番（田中尚君） 宮古市のスケジュールに対応出来ないということのようでありますので、それはそれとして承しますが、次にこの際皆さんのほうから、当局のほうから議会との向き合い方っていう部分で、やっぱり一つには説明責任というのは当然あるわけでありますから、前提には議会とそれから執行部皆さん、市当局との情報共有が大前提だと私は思っております。残念ながら私のこれ認識受け止めですよ。なかなか看板はそういう立派な看板抱えているんですけども、どうも議会の対応にも問題があると思うんですけども、必ずしもそういうふうにはなっていないなという私の受け止めであります。今の例で言いますと、例えばそのプロポーザルで選定したと。このティエフシーってなことでね、今流行りの片仮名用語でありますけれども、ここの言わば採用に至るポイントが何点で片方のほうは何点で、だからこちらなんだというね。その辺は従来資料も含めて説明した経緯があるんですよ。私の認識では、それは宮古市の自治基本条例からいっても当たり前のことだと思うんですが、前回にも副議長の工藤委員のほうからそういう指摘がございました。出せないという対応でありますね。これは少なくとも議会の了承、私は必要だと思うんですよ。従来出していたものが出せないということについてはね。当局だけの判断で議会がそれをいいとするようであればね。あえて言いますけれども、私はそんな議会は要らない。とまで言いたいわけでありますので、やはり自治基本条例に照らしてそこは丁寧にやっぱり議会の理解をいただくための説明をする。その上で今日は全員協議会ですから、やっぱりさらにこの事業をよりよくするために、議会のほうからの意見もいただくと。というのが私の協議会の在り方だと思っているんですけども。なんか最近の説明を受けて了承。了承まで行ったかどうかかわかんない。とにかく終わると。説明だけの全員協議会という形も何か結構ウエートがどんどん広がっていますので、そういったことで私は今日1番言いたい部分を冒頭に申し上げましたが、このプロポーザルで3者のうち1者の辞退が分かったわけでありまして、ここに決まった理由が一言も説明がないんですが、そこは説明できる、出来ないどっちですか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） いわゆる釜石造船所とティエフシー、2者提案があって、こういう理由でティエフシーさんが選定委員の中から選ばれましたという部分については説明出来ますので、ちょっと詳しい点数まではあれですけども、まず私も選定委員ですので、そこでまず全員が全ての項目におきまして上回っていましたけれども、その項目というのが…少々お待ちください。まず初めにどういう項目で審査をしたかということになりますけれども、まず実施体制、そして納入実績、その船の性能要件、あとは保守等の対応がどうであるか、という部分について各項目に基礎点がありまして、その部分で評価点としては極めて良好だとか、良好、普通、やや不十分、不十分という基準を設けてまして事細かに説明を受けて点数をつけていったということでもあります。1番まず違ったのが納入実績でございます。ティエフシーさんのほうが、19トン級の過去10年間の納入実績がまずアルミの単胴船ではございましたが。釜石造船所さんは実績がなかったという部分で差が開いております。また、船体の構造でございますが、釜石造船所さんのほうは船でいうと、右舷と左舷という、右側と左側ということで、結局右側で岸壁につけるほうしか乗れないという片方だけの乗船口の提案でしたけれども、ティエフシーさんは両方右舷も左舷も、ですから風によってはどっちからでも乗れるような

対応できる船、そういうところも大きな差が開いていたというふうに思っております。ただ細かいところを見ていけば、どんどんあるんですけども私を感じたところで大きいところはこのようなところでした。

○議長（古舘章秀君） 田中尚君。

○20番（田中尚君） 今の部長の説明といたしますか、答弁でおおむね理解できるわけでありませうけれども、ここから先は一つは議運のほうの言わば協議事項になるのかなと思うんですが、一つやっぱり資料提示、どこまで資料が可能なのか。もう一つは、議会、議員から質問されなければ説明しない。そういうつもりはもちろんないと思っておりますけれども、そこをいい意味で省略するためにやっぱり資料と説明するのはどうしても私は必要ではないのかな。しかも今のプロポーザルに関わる、言わば業者選定の経緯につきましては、どういう項目に何点でどうだということも言わば仕様書ですよ。分かり易く言いますと。そういうものも以前は私たちはしっかり当局から資料いただいたたんですよ。それがね、議運の了解でそうなったのかどうか分からないので、これはぜひ議運のほうで取扱いも含めてしっかりとした議会らしい対応をお願いしたいというふうにとどめたいと思うんですが、次に私が問題にしたいのは、船の説明いただいた経過からいきますと、いわゆる今の陸中丸の一つの魅力は浄土ヶ浜を外側から見ると。当然あそこ外側から見ることによって相当波のうねりも違ってくるといふ特性がございます。そこにこの19トンという船でどうなのか。事前のこれまでの説明ですと非常に揺れが避けられないという説明をいただいております。そうするとそのときの説明では、いわゆるそういう船の特性が余り問われないような内湾での遊覧を予定していると。場合によったら、出崎から向かい側の白浜だとか、この宮古湾の中を主にその就航する新たな航路ということでの説明いただいたような気がするんですけども、だとすると、今やっておりますその餌付けも含めて、浄土ヶ浜を海から見るこの観光は引き続きやるのかやらないのか。またそうなったときに乗客の安全性、船酔いも含めてやっぱりこの商品が本当に大丈夫なのか、というちょっと懸念がありますので、そこは念のために現時点での当局の言わば評価といたしますか、考え方をご説明いただければ助かります。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 現在、我々は今やっている奥浄土ヶ浜から外から浄土ヶ浜を見る航路の想定をしています。今回、提案を受けましたティエフシーさんの船体構造は、両方とも双胴船使用ですから、横揺れには強い。ただ弱いのはこのはたくとか、バンバンと。ここの高さを確保したりですね。あとは横から出るように水中よくっていいんですかね、そういうのをやるということでもかなりの揺れは防げるのかなと。ただしやはり警報級であれば多分欠航にはなると思うんですけども、当然我々は今現在の航路を軸に組んでいきたいというふうに考えています。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○17番（松本尚美君） はい。田中委員の前段の部分、やはり私も意見として申し上げたいなというふうに思います。さらっと説明すればそれで終わりということではなくて、しっかりと資料添付して、そして説明をしていただくということがより理解が深まるのではないかと、いうふうに指摘をさせていただきたいと思っております。まず確認なんですけれども、この選定委員の8名の方の人選といたしますか、これはどういったポイントで人選をされておりますか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 今まで宮古市がプロポーザル方式を採用して、選定委員をどういうふうに行ってきたかという例も参考にまず組みました。ただそれでいくと、専門性というか、そういう部分が今回はやは

り船ということで特殊でございますので、やはり専門的な見地の人も入っていただかないと、早い話素人だけでは判断出来ない部分が当然あるだろうということから、海技短大の先生、あと水産高等学校のほうにも協力を得まして、2名の専門の立場から見てもらうようなということで構成をいたしました。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○17番（松本尚美君） 専門的知見を有する方の選定が必要だということではそれで理解出来ますね。それが私大きいポイントだと思っていました。ただ割合的に市の職員、ほぼ専門的な知見がない職員が大半を占めますね。だから本当にそれでいいんだろうか、という思いがあるんですね。予定するこの予算、価格とかなんかはこれは安いほうがいいとかですね。そういったことになろうというふうに思いますけれども、やはり船の構造にもしくは先ほど田中委員からも出ましたけれども、航路の、宮古の状態ですかね。これに対応できると。可能な限り欠航を減らすと。安全ももちろんなんですが、そういったもっと、こうなんていう船の構造、プラスチック、この今の海の状況ですかね。そういったものにもっと詳しい方も私も必要なんではないのかなというふうに思うんですね。部長はスタビライザー一つけるとか、双胴船だとか、そういったことの話で安全という話ですけども、以前にも指摘しましたけれども陸中丸をずっと建造してきている造船会社、この造船会社は東京にあるという指摘をさせていただきましたけれども、そこはやはりこの宮古の海域に限りなく、習熟しているっていいですか。理解をして、そして検討してきたという歴史があるんですね。だからそういう意味でちょっと本当にどうなんだろうかなというふうに思うんですね。前にもちょっと指摘しましたけれども、釜石も震災で打ち上げられて撤去して解体してしまったんですけども、あれも双胴船なんですね。ただなかなか採算性ももちろんなんですけれども、厳しい運航状況ということなんです。要するに内湾といいますか、湾口防の工事に合わせて船を造ったようですけども、要するに外海に対応出来ない。対応しないというのが前提だったようですね。だから、そこがどうもこの専門的知見というか、この方々が専門的知見がないとは言いませんけれども、特にも2人ですね。海上技術短期大学、それから水産高等学校の先生。どの程度の知見があるんですかね。私はちょっと理解出来ないんです。そこは何かこう、この先生はこういうのに詳しいとかですね、過去にはこういうことに関わったことがあるとか、そういう実績があるとかってということなんですか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） まず我々海技短大並びに宮古水産高等学校の校長先生のところに行ってこの選定委員会を設けますと。こういうふうに、こういう立場でご審査をしていただく人が欲しいんですというまず説明をしました。ふさわしい方を推薦願いますということで、このお二方が推薦されて選定委員として任命したところでございますので、この方々のレベルがどうだこうだということまで我々は掌握してございませんが、学校のほうから趣旨を理解して推薦された2名ということでございます。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○17番（松本尚美君） そうなると何とも言いようがないですけども、かつて私も1回見てきたんですけども、船の設計を用意ドスタートする一つのポイントは、この要するに船体の船型なんですね。これは波を人工的に起こしてそしてどういった船の構造、要するに設計ですね。形がいいかどうか。そういったものを研究しているところが長崎県の佐世保にあるんですね。そういったところから、波を何メートルの波とかそういったものを、実験装置っていいですかね。長い水路があるんですけども、そこに人工的な波を起こして船体を浮かばせて、そしてどんどん進化させていくということのようですね。そうすると私はやっぱりこのプロポーザルでこ

の船の船体とか構造とか形とか、そういったものをやっぱりもっと専門的にチェックしなきゃなんないんじゃないのかなというふうに思うんです。そこがちょっと抜けているかなあという思いがするんですが、それは杞憂でしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 我々はやはり当然選定の項目に納入実績という項目もございます。どういう実績があったか。どういう技術者が配置され、どういう経歴があるかというところまで資料を求めていましたので、恐らくというか、そういうところでまずできるという判断は可能かなというふうに理解をしています。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○17番（松本尚美君） 今ここまで進んでいる以上また戻るっていうことは厳しいのかなというふうに思いますけれども、やはり最近でも飛行機とか船とかそういったものの事故があったんで、これは国が専門的な職員といえますか、人材を確保してそしてチェックしているんですね。だから、やはり安全という部分に事故があってはならないという前提でやっていますから、本当に究極とまで行くかどうか分かりませんが、最先端の安全性の高い船を確保するということを考えると、どうなのかなというふうに思われたんで確認をさせていただきました。ちょっと念頭に置きながら、今後チェックといいますかね、そこはしっかりやっていただきたいと思います。それからクラウドファンディングなんですけれども、これも私もちょっと提案させていただいた時期もあるんですけども過去にですね。目標額っていうのは幾らぐらいの設定。もう幾らでもいいということでしょうか。最低幾ら集めるとかですね。より装備も含めてプラスアルファに投資していただいたお金を有効活用していくのか。もしくはもう今予定している額、要するに発注額ですね。その一部にするだけという考え方でしょうか。どういう目標をお持ちでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） クラウドファンディングについては、7月からということで考えてございます。7月にイベントを実施したいなと思っています。同時に盛り上げていきたいなど。金額についても具体的にはまだ決めてございませんけれども、高い目標を持って実施していきたいというふうに思っております。またふるさと寄附金、企業版ふるさと納税については2月から実施をしてございます。昨日4月29日現在でふるさと寄附金については65万9,000円、企業版ふるさと納税についてはゼロとなっております。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○17番（松本尚美君） しっかり私はやっぱりこの遊覧船事業を何とか再開させたいという思いをね、市民も共有されているというふうに思いますし、またこれを今コロナの問題ありますけれども、この収束が見えた段階で、そういった観光客の確保等々に有効に活用していくためにも必要なだろうなというふうに思いますけれども、いずれこのしっかりこの目標額を示し、そしてどういった展開をしていくかということもやはり中身がないといけないのではないかな。また、ファンディングは投資ですから、投資していただいた方々は市内はもちろんですけども、市外、全国なのか世界になるのか分かりませんが、発信していただいて、そして対応していただいた方々にどういった形でネットワークといいますかね、作っていくか、それをどう活用していくか。そういったことも含めてトータルのやはりプランがないと、ただはい集めます、だけではね。私はやっぱり問題ではないかな。私は大きなポイントだと思いますよ。そこはどのように認識されていますか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） その点につきましては、松本委員前回のときもそういうご意見をいただきましたし

た。私もそのとおりだというふう感じております。正直申し上げてもう本当に目先のどこだけしかこう1個ずつ潰してきてないというのが本音でございまして、やはり遊覧船事業の大きなポイントがまず一つはやっぱり財源の確保なんだろうと。もう一つは運営会社だというふうに思っていますので、その財源確保の部分についてストーリーといいますか、ちゃんと絵姿というかそういうのを持って早急に作って取り組みたいというふうに思います。

○議長（古舘章秀君） 松本尚美君。

○17番（松本尚美君） 先ほど課長からも7月からクラウドファンディング、頭からやりたいとなれば、そんな余裕はないんですよね。先ほどはちょっと結果別な部分なんでしょうけれど、ふるさと納税の関係とかっていう話になりましたけれども、企業版もないですよ。やっぱりこれは遊覧船事業に限ったことじゃないかもしれませんが、今日は遊覧船事業なんで、この遊覧船をどう確保し、そのための財源の確保をもちろんですけども、プラスアルファのやはりつながりといいますか。そういったことをどう作っていくかっていうのを私はやっぱり就航してからのネットワークづくりのためにも必要だというふうに思います。だから皆さん忙しくて大変なんであれば、トータル的に考えてどなたか知恵を、知見を集約してそして早くこれ示さない。ただお金だけくださいでは駄目ですよ。どうです。いつ頃見えますか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） はい。まさしくそのとおりというふうに思いますので予定で7月上旬ということであれば、今からというか取りかかっていかなきゃならないというふうな認識でございます。

○議長（古舘章秀君） 落合久三君。

○16番（落合久三君） 一つは冒頭田中議員から出た点、全くも私もそれをそう思っておりましたので、やっぱりきちっとこのプロポーザルをした中身、選定に至った経過、当然、資料として最初から示してこういう理由でこのティエフシー社になったんだっていうのが分かるように当然すべきだっていうのは一言私も話しておきたいと思います。それを踏まえた上で、次の点はどうなのかなっていう質問ですが、このプロポーザル業者を3者指名をした。私はちょっと少ないなと。根拠はないんですが、例えば長年陸中丸等を建造してきたのは墨田造船です。かなりここは技術もあるし全国に双胴船をやっているかどうかまでは知りませんが、宮古市にとっても古い付き合いのある造船会社だったんですが、このプロポーザル指名3者っていうのはどういう基準で3者にしたのか。私はもうちょっと広げるべきだったのではないかなという素朴な思いがあるんですがこの点はどうですか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） お答えいたします。12月の全協でも説明してございますけども、新造船は19トンの双胴船、小型船でございます。その材質はアルミ船ということで進めてきました。県内の造船所でこの条件で建造できる業者が3者ございました。今回の3者になりますけども、毎年シーズン前に行う整備、そして定期的な検査、ドックを県内の造船所で行えば、コストを抑えることができること。そして故障修繕など緊急時での迅速な対応ができるということで、県内の3者に決めたところでございます。

○議長（古舘章秀君） 落合久三君。

○16番（落合久三君） なるほど。そこの説明はよく分かりました。従来、陸中丸の時も故障があれば墨田造船まで行ったわけではなくて、大がかりなのは別にしてね。昔は可能だったし、実際やってきているっていうふうに理解しているんでこういう質問をしました。ただそういうふうな保守点検や、事故が起きて緊急に保守し

なきやない。そういうことも考えて、県内の会社をプロポーザル指名をしたという点で、そこは了とします。もう一つ、次の点はですね。完成品この資料では引渡しは5月末、運航開始が7月中旬、そもそも、宮古市の発注者の市からの仕様ではいつまでに完成品をっていうこちら側のこの期日の指定みたいなのはなかったんですか。もう全て造る側に合わせてっていうんではない。私は少なくとも5月の連休には運航できるように、いい意味でせかすと言うか、期限も明示すると。それでできるのかどうかっていうふうにきちんとすべきだったんでないかなっていう思いがあるんで、ここの納品がこういうふうにならな理由は何ですか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） これも12月の全協で説明してございました。令和3年5月に建造の契約請負を締結して工期を12ヵ月見て、来年の4月、令和4年4月に完成、そして引渡しを行って5月のゴールデンウィークの期間中に再開をしたいということで説明してございましたけども、これについては田野畑村の単胴船の遊覧船建造の工期やスケジュール感を参考としたものでございました。今回プロポーザルに参加いただいた2者からですね。工期について双胴船ということで設計に時間がかかると。工期にかなり厳しいという話をいただきました。その後、そのことを受けて2者と協議を行って、また安全検査の関係で再度、東北運輸局とも協議をした結果、工期を令和4年5月31日までとして、工期は1か月延びて13か月、その後6月の1ヶ月で安全検査を行うと。その後、習熟航海訓練や試運転も含めて、先ほど部長が説明しましたけども、7月の中旬に就航再開をしたいというふうなスケジュールで現在は考えてございます。

○議長（古舘章秀君） 落合久三君。

○16番（落合久三君） 分かりました。最後、ファンディングのことなんですが、今課長のほうから説明があったんですが、7月から本格的に呼びかけていく。その場合にいわゆるこの寄附を募るときに、何の目的でどういってお金が必要なのかっていうんで呼びかける際に、他の経験から重要だと思うのは、どういうメンバーが呼びかけ人になるかっていうのを私は非常に重要だと思っております。この点はどういう構想を持っていますか。私は一般質問じゃなくあれはちょっと忘れましたが、そうなるかどうかは別にやっぱりネームバリューもある。しかも宮古にも来たことのあるそれでいて多くの人からも認知度が高い。そういう人も含めて、寄附を呼びかける呼びかけ人っていうのはずっと知恵を働かせるべきでないかなというふうに思っているんで、山形県なんかはサケのことでね。ちょっと実際サケの話なんですけど、今回の遊覧船の例と合致するかどうかはちょっと別なんですけど、端的に言って吉永小百合さんが登場しただけでも町中が変わったんです。県も変わったんですよ。という例もあるぐらいですから、この呼びかけ人についてはやっぱり広くそういう検討をして、何ていうか、それを見た人たちが気持ちを動かすような、そういうことをぜひ検討して組織すべきだと思うんですが、この検討はというふうに考えておりますか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） ご意見ありがとうございます。確かにたくさんの方のご寄付いただくためにもそういった部分、非常に重要な部分の一つかなというふうに思います。現在頭の中では真っ白でございます。逆に本当にちょっといい知恵があったら皆さんとともに考えていって、歩きたいと思います。

○議長（古舘章秀君） 長門孝則君。

○14番（長門孝則君） 確認の意味でちょっとお聞きしたいと思います。一つは運航開始の件だったんですけども、今の落合議員の質問に課長が答えてちょっと無理だなと。実は前回の説明では5月というふうな説明があったもんですから、これは大型連休に間に合うなど。そういうふうに期待をしてだったんですけども、今回運

航開始が7月になるということで何とか5月の大型連休に間に合わないのかなと。そういうことを確認したかったんですけども、何かあります。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 私たちも少しでも早く再開したいという思いでやってきました。事業計画が少し検証が甘かったのかなというふうには思っております。大変申し訳なく思っております。いずれここまで来ればある程度余裕を持って何回も言いますけれども来年の7月、海の日あたりを目指して執行していきたいと考えてございます。

○議長（古舘章秀君） 長門孝則君。

○14番（長門孝則君） これも確認の意味でお聞きしますけども、遊覧コースあるいは料金、これ今までどおりというふうに、理解していいんですかね。今までは浄土ヶ浜湾内遊覧するというコース。そして料金は1,500円でしたっけか。そういうことでやってきているんですけども、これからも、そういうことでいいのかなと。ちょっと確認の意味でお聞きします。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 先ほど説明したとおり航路は、現在の航路をまず基本としたいというふうなことには変わりございません。料金につきましても、我々がこの収支この19トンの小型船を考えるに当たって収支を計算したときには現在の1,500円。年間4万人という部分をベースに考えていましたので、やはり一つの基本は現在の金額なんだろうなとは思いますが、それは今後運営会社というか、運営の部分を考える際にもう少し吟味する必要があるんだろうなというふうに思います。

○議長（古舘章秀君） 長門孝則君。

○14番（長門孝則君） それからもう一つ、出崎からの出港はどう考えているのかなと。ちょっとその辺をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 出崎そして現在の浄土ヶ浜の発着場、そして遊覧コースというふうに出崎は当然活用するという方向で考えてまいります。

○議長（古舘章秀君） 熊坂伸子さん。

○7番（熊坂伸子君） これまでの他の議員さんの質問で大体理解が出来てきたんですが、少しだけ確認をさせていただきます。この株式会社ティエフシーさんに決まったということで、過去10年間の19トン級の船の納入実績があったということが大きなポイントのようなんですけども、船にもいろいろございますけれども、観光船ということについての実績はおありだったのでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 震災後、ティエフシーは7隻の漁船を19トン建造しています。遊覧船は、田野畑の遊覧船を建造してございます。

○議長（古舘章秀君） 熊坂伸子さん

○7番（熊坂伸子君） 最後のページに設計図といいますが、図面があるんですが、私よくちゃんと読めないで聞いているんですけども、これはバリアフリー対応になっているのでしょうか。そこをお聞かせください。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 3ページの図面でございますけども、あくまでもこれは概要図になります。今後、

詳細といたしますか、擬装も含めて装備も含めて詰めていきたいというふうに考えてございます。またユニバーサルデザインバリアフリーについては、整備していきたいというふうに考えてございます。

○議長（古舘章秀君） 熊坂伸子さん

○7番（熊坂伸子君） これからは観光客の方も高齢化、あるいはいろいろな方が見えるし、受入れていく方向になると思いますので、ぜひその辺はしっかり意見交換をして詰めていただきたいというふうに思います。それから、運営会社の選定について、先ほども大きなポイントが財源と運営会社の選定だというお話がありました。これ前に説明いただいたかどうかちょっとあれですが、この選定方法というのはどういった方法で選定されるのでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 今まで公設民営という言い方をしてきましたけれども、私たちが現在考えて指定管理方式ということで、市の指定管理の方針に基づいて選定をされるということを基本ですけれども、今、仕方どうかですね、庁内でもう一度ちょっと考えようということでそもそもこの船を公の施設とするのかどうかも含めて考えてまいりたいというふうに思っています。

○議長（古舘章秀君） 熊坂伸子さん。

○7番（熊坂伸子君） この観光船を指定管理で運航を引き受けるという例は今まで市では前例がないことですので、どういった方法で指定管理を受ける方を選ぶのかということについても、暗中模索だとは思いますが、ここは大事なところかなと思っていますので、ぜひ庁内でも十分に検討されて、また検討の経緯といたしますか、ぜひ議会にも説明をいただければというふうに思っています。私からは以上です。

○議長（古舘章秀君） 畠山茂君。

○4番（畠山茂君） それでは4点ほど聞こうと思ったんですけども、前の議員さんの方々も重なった部分あるので、そこは省略したいと思います。まず1点目のところスケジュール感というところで、前回の説明からするとかなり計画が遅れたなというのは先ほどの説明で理解をしましたので、そこは省略したいです。二つ目が財源の在り方です。2ページのところでお聞きしたいと思うんですが、（5）のクラウドファンディング、先ほど説明もあって金額は未定だと。それからふるさと納税の件も聞こうと思ったんですけど、そこは現時点で65万ぐらい集まっているという説明いただきました。3月議会でも、令和3年度の予算を決議したわけですよ。今年は1億1,000万ちょっとで来年も1億円というのは全体で2億2,000万ぐらいというふうな議会としては認めたわけですけども、先ほどの説明を聞いていると、クラウドファンディングにしろ、ふるさと納税にしろ、なんか目標もないし、どうなんだろうというちょっとそこを疑問に思ったので、改めてこの財源のこの2億2,000万の考え方がきちっと当局にあるのかどうかまずそこをお聞きしたいと思います。

○議長（古舘章秀君） 伊藤産業振興部長。

○産業振興部長（伊藤重行君） 2億2,000万の考え方といたしますか、確かに松本議員のおっしゃったとおり、目標を持ってやるべきだなというふうに今日本当に改めて思ったとでございます。集まればいいやと、集まった分だけもらって残りはっていうような考え方ではならないなというふうに思いましたので、その部分については、クラウドファンディング開始前まで、ちゃんと先ほども言いましたけどもストーリーといたしますか、ちゃんとしたものを持って臨んでいきたいというふうに思っております。

○議長（古舘章秀君） 畠山茂君。

○4番（畠山茂君） よろしくお願いたします。3点目がですね、収支の関係で今回は出ていませんけども、今

日の説明を聞くとかなり12月の説明からすると、いろんな部分で計画が徐々に時間が過ぎると同時に変わってきているなという部分を感じていまして。前回の説明だと収支年間170万ぐらい黒字だよというようなご説明も受けていましたけども、現時点でそういう収支の変更はまずないのかお聞きしたいと思います。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 収支については変更は考えてございません。

○議長（古舘章秀君） 畠山茂君。

○4番（畠山茂君） 最後です。2ページの（4）の運営会社を選定の部分です。先ほど来のお話でここも当初の説明だと6月からほぼ初めて8月に決めるというお話でしたが、ここは9月から11月にずれたというところで、ここも計画から遅れているんですけども、実際に新聞等でも宮古市の考え方いつか載ったような広報でもいろいろ載ったと思っているんですけども、現時点でこの運営会社、お問合せとか、当局に今来ているのかないのかそこをちょっと確認したいと思います。

○議長（古舘章秀君） 前田観光課長。

○観光課長（前田正浩君） 正式な問合せはまだございません。9月から運営会社の制定を考えているというのは、先ほど部長からも説明がございましたけども、指定管理を想定してます。現在、遊覧船の設置条例を制定しなければならないと思いますので、9月頃を考えます。それらの制定をしないと公募出来ませんので、それからのスケジュールということで9月を設定してございます。

○議長（古舘章秀君） 畠山茂君。

○4番（畠山茂君） 9月、これもなかなか見通しが見えない。ただ先ほど来お話あるとおりの主体的な運営会社が見つからない限りなかなかこの事業も厳しいと思いますので、そこもぜひご検討をいただいて、私は終わります。

○議長（古舘章秀君） そのほかにご覧いませんか。ほかには質問はないようですので、この件はこれで終わります。説明員は退室してください。お疲れさまでした。予定しておりました説明を全て終了いたしました。その他に移ります。皆さんから何かございますか。ないようですので、これをもって議員全員協議会を閉会します。お疲れさまでした。

午前10時52分 閉会

○

宮古市議会議長 古 舘 章 秀